

## 博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	東京工業大学	整理番号	G01
プログラム名称	グローバルリーダー教育院		
プログラム責任者	佐藤 勲	プログラムコーディネーター	中村 聡

### 博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

#### [総括評価]

概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

#### [コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、「道場」を通して理系の東京工業大学と文系の一橋大学の大学院学生が切磋琢磨する本プログラムは、文理の枠を越えた教育を期待できるものであり、国内外でのオフキャンパス教育により、専門能力や人間力を実社会で試す機会を設けるなど、概ね計画に沿った取組が行われた。しかし、東京工業大学のプログラム担当者の尽力に比して、一橋大学からの協力が限定的であったため、一橋大学からの学生の参加は、学期参加者を除き 7 年の支援期間中に 9 名のみであり、文理の枠を越えて学び合うという目的に関しては、一部で十分な成果が得られていない点もある。この点については、平成 28 年 10 月に東京工業大学と一橋大学の両学長間で連携強化策の合意がなされたが、さらに早い時期に対策が講じられていれば、一橋大学からより多くの学生の参加が見込まれたと考えられる。また、支援期間中に本プログラム独自のメンター制度が実質的に機能を失い、さらに、プログラム学生が自由に使える共有スペースの利便性が損なわれるなど、一部にプログラム学生にとって不利益になる変更が見受けられた。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、本プログラムの修了者の中には優れたコミュニケーション能力を備えた人材として産業界に進出する者も多く、起業する者も出るなど、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。また、オフキャンパス実習の派遣先企業に就職した者が 3 名おり、本プログラムが、実習派遣先の企業から高い評価を得ていると認められる。本プログラムは、大学と企業が共同教育を行う良い事例となるであろう。

事業の定着・発展については、東京工業大学では「リーダーシップ教育院」を設置して本プログラムを含む博士課程教育リーディングプログラムの教育体系を引き継いでいる。さらに、他大学の学生にも門戸を開いて多様性に基づく教育を行うことも検討されており、目標達成のため一層の努力を求めたい。また、国内外の政財官学界で活躍しグローバル社会を牽引するトップリーダーを養成するオールラウンド型プログラムの真の評価は、修了者の社会での活躍度によって測られるものであり、既に実施している追跡調査の継続を期待したい。

事後評価結果案に対する意見申立て及び対応

機 関 名	東京工業大学	整理番号	G01
プログラム名称	グローバルリーダー教育院		
プログラム責任者	佐藤 勲	プログラムコーディネーター	中村 聡

意見申立て内容	意見申立てへの対応
<p><b>【申立て箇所】</b></p> <p>(第一段落) 東京工業大学のプログラム担当者の尽力に比して、一橋大学からの<u>協力が限定的であったため</u></p> <p><b>【意見及び理由】</b></p> <p><b>【変更案】</b> <u>プログラム担当者の尽力はあったものの</u>、一橋大学からの<u>連携先部局が限定的であったため</u>、</p> <p><b>【変更の理由】</b> 一橋大学との連携の課題は属人的なものではなく連携形態によるものであり、第一段落8行目～10行目の両学長間での合意に基づく改善の記述との整合を図るため、文言の変更を希望いたします。</p>	<p><b>【対応】</b> 原文のままとする。</p> <p><b>【理由】</b> 一橋大学からの連携先部局が限定的であっただけでなく、当該部局からの東京工業大学の大学院学生と同様に全ての課程を履修する履修学生(本プログラムの用語でいう「フル参加者」。以下「フル参加者」という。)も十分に確保されておらず、また専任教員の協力も限定的であった。</p>
<p><b>【申立て箇所】</b></p> <p>(第一段落) 一橋大学からの学生の参加は、<u>学期参加者を除き</u>、7年の支援期間中に9名のみであり、</p> <p><b>【意見及び理由】</b></p> <p><b>【変更案】</b> 一橋大学からの学生の参加は、<u>学期参加者 45名を除き</u>、7年の支援期間中に9名のみであり、</p> <p><b>【変更の理由】</b> 一橋大学からの学生は、フル参加者9名のみであるとの誤解を招くため、学期参加者数の追記を希望いたします。</p>	<p><b>【対応】</b> 原文のままとする。</p> <p><b>【理由】</b> 本プログラムでは「フル参加者」や「学期参加者」という表現を用いているが、博士課程教育リーディングプログラムの評価においては、「フル参加者」を履修者の対象としており、「学期参加者 45名」と表記することは、本評価において、本プログラムの履修者の対象がそれだけ多くいたような誤解をもたらすおそれがあり、他大学の評価との公平性を欠くことになる。</p>

**【申立て箇所】**

(第一段落)

この点については、平成 28 年 10 月に東京工業大学と一橋大学の両学長間で連携強化策の合意がなされたが、さらに早い時期に対策が講じられていれば、一橋大学からより多くの学生の参加が見込まれたと考えられる。

**【意見及び理由】****【変更案】**

この点については、平成 28 年 3 月の中間評価結果で抜本的改善が求められたことを受けて、平成 28 年 10 月に東京工業大学と一橋大学の両学長間で連携強化策の合意がなされたが、さらに早い時期に対策が講じられていれば、一橋大学からより多くの学生の参加が見込まれたと考えられる。

**【変更の理由】**

連携強化の指摘から学長間合意に至るまでの時間関係が不明瞭で、当初からの指摘に対して数年間対応を怠ってきたとの誤解を招くため、中間評価結果での指摘時期の追記を希望いたします。

すなわち、平成 25 年度の現地視察報告書において「第 3 期生において一橋大学からの学生の参加も見込まれるので、これもきっかけにして一橋大学と強力に連携し、文理融合のあるべき形を全力で模索して行って欲しい。」との意見を頂戴したことから、一橋大学大学院の特色を踏まえて、全課程を履修するフル参加に加えて、本学位プログラムの中核部分を学期単位で履修する学期参加の制度を構築しました。その結果、平成 25 年度の P0 フォローアップ報告書において「これまでのプロセスで問題が指摘された点や、懸念が表明された事項は、その都度関係者が打ち合わせを行い、具体的な改善がなされている（例えば、一橋大学との連携強化など）」とのコメントを頂戴し、平成 26 年度の P0 フォローアップ報告書においても「学生の専門分野、東京工業大学と一橋大学の比率、出身学部の比率、男女比など、すべての面で比較的多様性に富んでいることも、相互交流にプラスになっているかもしれない」とのコメントを頂戴しました。しかしながら、平成 27 年 10 月の中間評価現地調査ならびに平成 28 年 3 月の中

**【対応】**

原文のままとする。

**【理由】**

一橋大学との連携体制が、申請時の説明とは異なり不十分であることについては、中間評価結果での指摘のみならず、平成 28 年 10 月以前のプログラム開始当初から現地視察等を通じて繰返し指摘がなされてきた。しかし、一橋大学からの参加者に対する財政支援をはじめ、有効な対応が見られなかったことから、平成 28 年 3 月の抜本的改善を求める中間評価に至ったものである。その経緯は事後評価の「さらに早い時期に対策が講じられていれば」という表現にこめられており、逐一記載する必要はないと考える。

<p>間評価結果の留意事項として「一橋大学との連携については、いまだに本質的な連携強化策が明確になっていない。一橋大学からの正規年限のフル参加学生の増加策、後継組織である「トップリーダー教育院」における一橋大学との協力関係など、課題を分析し整理したうえで、それを基に抜本的な改善策を立案し、当初の目的を実現するための一層の努力が必要である」との指摘を受けたことから、両大学の学長との間で更に検討を行い、平成 28 年 10 月の合意に至りました。</p>	
<p><b>【申立て箇所】</b></p> <p>(第一段落)</p> <p>本プログラム独自のメンター制度が実質的に機能を失い、さらに、プログラム学生が自由に使える共有スペースが施錠されたことにより利便性が損なわれるなど、一部にプログラム学生にとって不利益になる変更が見受けられた。</p> <p><b>【意見及び理由】</b></p> <p><b>【変更案】</b></p> <p>本プログラム独自のメンターが不在となりメンタリングの機能が低下するなど、一部にプログラム学生への便益が減少する変更が見受けられた。</p> <p><b>【変更の理由】</b></p> <p>本学位プログラムでは、2名のメンターを雇用して、主に学生のキャリア獲得、対人関係や日常の教育研究活動における悩み事等への相談とメンタリング・コーチングを担当させてきましたが、1名は平成 29 年 9 月末、もう 1 名についても平成 30 年 3 月末に退職をしました。メンタリングの機能の低下は否めないものの、下記の通り学生へのメンタリング・コーチングは継続して実施しております。</p> <p>①当初より国内外の多様なセクターからの第一線の人材による専門分野の研究内容、社会との関わり等に関するメンタリングについては、本学位プログラムでは道場主や道場教育における外部講師が担っており、現在もその体制を維持している。</p> <p>②後任メンターの補充についても検討したが、本学位プログラム補助金の減額に伴い、教育活動への資源投入を優先せざるを得ないこと、こ</p>	<p><b>【対応】</b></p> <p>以下のとおり修正する。</p> <p>本プログラム独自のメンター制度が実質的に機能を失い、さらに、プログラム学生が自由に使える<u>共有スペースの利便性が損なわれる</u>など、一部にプログラム学生にとって不利益になる変更が見受けられた。</p> <p><b>【理由】</b></p> <p>2名いたメンターがいなくなった後、メンターとしての補充をしていないため、原案に記載しているとおりに「実質的に機能を失っている」。施錠に関する事実関係については、より正確を期するために上記のとおり文言を修正する。</p>

<p>れら2名のメンターが担当してきた学生のキャリア獲得や日常の教育研究活動における悩み相談・メンタリングと同等の機能を有する「学修コンシェルジュ」「キャリアアドバイザー」制度が、平成28年に開始した本学の教育改革にあわせて全学の制度として自主経費により整備されたことから、経費の有効活用の観点に基づき、これらの全学制度を利用する判断をした。これに対する学生の反応については、任期満了となったメンターからの総括的な報告を通して概ね把握しており、メンターが不在となったことへの学生の不満・不安の背景には（個々の学生から見て）専属のメンターがいることで安心して個人的なことも相談できたこと、特に日本語を要しないコースに在籍する外国人留学生にとっては英語で日常生活やキャリアパスについて親身に相談に応じてもらっていたことがあると判断している。こうしたサービスを全学制度としての「学修コンシェルジュ」「キャリアアドバイザー」に課すことは難しい点もあるが、本学位プログラムで得た経験をもとに、少なくとも学生が不安なく相談やメンタリングを受けられるよう配慮している。</p> <p>③平成30年3月末をもって任期が満了となったメンターは、現在、上記の「キャリアアドバイザー」として引き続き学生のメンタリング・コーチングを担当している。</p> <p>原文ではこうしたメンタリング・コーチングの機能そのものを失ったとの誤解を招くため、文言の変更を希望いたします。</p> <p>また、プログラム学生が自由に使える共有スペースに関しては、メンターの退職・異動とは関係なく、以前より当該スペースが無人の場合には施錠し、使用時に解錠することとしております。この点において事実とは異なるため、文言の削除を希望いたします。</p>	
<p><b>【申立て箇所】</b></p> <p>（第三段落） 博士課程教育リーディングプログラムの教育体系を引き継ぐとともに、<u>他大学の学生にも門戸を開いて多様性に基づく教育を行うことも検討されており、</u></p> <p><b>【意見及び理由】</b></p>	<p><b>【対応】</b> 以下のとおり修正する。</p> <p>博士課程教育リーディングプログラムの教育体系を引き継いでいる。<u>さらに、他大学の学生にも門戸を開いて多様性に基づく教育を行うことも検討されており、</u></p> <p><b>【理由】</b></p>

<p><b>【変更案】</b>  博士課程教育リーディングプログラムの教育体系を引き継いでいる。また、他大学の学生にも門戸を開いて多様性に基づく教育を行うことも検討されており、</p> <p><b>【変更の理由】</b>  既に本プログラムの教育体系を引き継いだ「リーダーシップ教育院」は設置されております。原文では、「他大学の学生にも門戸を開いて多様性に基づく教育を行う」ことと併せて、本学位プログラムの教育体系を引継ぐ組織の構築も検討段階にあるとの誤解を招くため、文言の変更を希望いたします。</p>	<p>該当部分については事実と齟齬がなく、より正確を期するため、上記のとおり文言を修正する。</p>
<p><b>【申立て箇所】</b></p> <p>(第三段落)  継続的な追跡調査を期待したい。</p> <p><b>【意見及び理由】</b></p> <p><b>【変更案】</b>  既に実施している追跡調査の継続を期待したい。</p> <p><b>【変更の理由】</b>  修了生へのフォローアップは既に毎年実施しており、「これから追跡調査を開始する」との誤解を招くため、文言の変更を希望いたします。</p>	<p><b>【対応】</b>  以下のとおり修正する。</p> <p>既に実施している追跡調査の継続を期待したい。</p> <p><b>【理由】</b>  該当部分については事実と齟齬がなく、より正確を期するため、上記のとおり文言を修正する。</p>